

令和4年度 事業報告

財団法人シルクセンター国際貿易観光会館は、横浜開港 100 年記念事業として、神奈川県、横浜市及び関係団体の協力のもとに、生糸及び絹業を中心とする日本の産業貿易並びに観光事業の振興発展を図るために設立され、その目的達成のため昭和 34 年 3 月 12 日にシルクセンタービルをオープンし、長年、会館を運営してきました。

平成 26 年 4 月の一般財団法人への移行後も公益目的支出計画に基づき、絹に関する知識の普及・伝承、絹製品の需要の促進、国際貿易及び観光の振興等の事業を積極的に展開しています。

なお、令和 4 年度は引き続き新型コロナウイルスの感染拡大を受けながらも、当財団として様々な感染防止対策を講じながら事業の実施に努めました。

令和 4 年度における各事業の実施状況は、次のとおりです。

I 実施事業

公益目的支出計画の実施のため、公益事業として次の事業を行いました。

1 博物館事業（継続事業）

絹知識の普及と絹製品の需要の促進に寄与するとともに、魅力ある博物館づくりをめざし、常設展示の充実や、主に県内小学校を対象とした蚕やシルクの理解促進のための教育普及事業等に取り組みました。

また、春の企画展として所蔵品展「紬のきもの」、秋は特別展「横浜から世界へ―海を渡った生糸―」を開催しました。

(1) 展示事業

ア 常設展示

学校教育活動や生涯学習の場として活用できるわかりやすい展示、また、絹による服飾工芸品の鑑賞の場として、魅力ある展示となるよう努めました。特に、収蔵作品の公開と保存のバランスを考慮し、適宜展示替えを行いながら江戸の小袖や優れた現代作家の染織作品などを紹介しています。また、世界の民族衣裳展示の 18 世紀フランス時代衣裳のマネキンをドレスに適合したボディに更新し、着装展示しました。

イ 春の企画展

「紬のきもの」

[会 期] 令和4年4月23日(土)～6月5日(日)

「紬」は紬糸で織られる絹織物です。養蚕農家の農閑余業として生産されていた紬は、各地の特産品として発展していき、江戸時代には庶民の利用が許される絹織物として人気を博しました。現在、日本各地で伝統的工芸品として生産されている紬は、手間と技術を要すことから高級品となりましたが、その本質は手仕事が生むぬくもりにあります。本展では、シルク博物館の所蔵品のなかから、日本各地の紬の着物や着尺地を展示紹介しました。また、現在では伝承が途絶えてしまった神奈川県津久井地方の紬織物「川和縞」の袴1点を借用し、特別出品しました。

ウ 秋の特別展

「横浜・生糸」ものがたりⅢ「横浜から世界へ 一海を渡った生糸」

[会 期] 令和4年10月1日(土)～11月13日(日)

近代日本の夜明けとともに始まった生糸貿易について横浜の町や生糸取引の様子を描いた浮世絵や版本、束装生糸などの資料を展示し、日本を代表する貿易都市横浜の発展を支えた人々を紹介しました。

展示資料のうち、横浜絵を代表する絵師の一人である貞秀が描いた6枚続の浮世絵「再改横浜風景」、開港当時の横浜の様子を描いた版本『横浜開港見聞誌』、明治から大正時代の横浜の街並みを撮影した手彩色の絵葉書は近年収集した資料として、当館において初公開しました。

(2) 教育普及事業

ア 「チャレンジ!かいこプログラム」

(ア) 蚕種配布

a 学校対象

[期 間] 令和4年5月12日(木)～5月14日(土)

県内の小学校等を中心に、蚕の卵(蚕種)や人工飼料を有償頒布しました。また、指導者用資料として蚕種配布者全員に「蚕の飼育マニュアル」を配布するとともに、教員を対象とした蚕についての講座も開講しました。

b 個人対象

[期 間] 令和4年7月22日(金)～24日(日)

個人向けに蚕種を有償頒布しました。なお、今年度は、一般財団法人大日本蚕糸会が主催する全国蚕糸関係博物館横断キャンペーン「カイコを育てよう！2022」の対象イベントとして、他の蚕糸関係博物館4館とともに参加しました。

(イ) 「かいこ教室」

[期 間] 令和4年7月30日(土)～8月14日(日)

小学生等が蚕からシルクまで一貫して学べるように、保存蚕品種・野蚕の飼育展示、蚕の生体観察の他、繭人形、生糸のランプシェード、真綿のスタンドを作る体験等を実施しました。

(ウ) 団体見学・ワークショップ

[期 間] 団体見学 随時

ワークショップ 毎月1回程度開催

小学生等の蚕についての理解促進を図るため、小学校の団体見学を積極的に受け入れるとともに、子ども向けの繭や真綿を使った人形作りのほか、生きた蚕の観察とシルクについての勉強会などのワークショップを開催しました。

(エ) 「たのしいかいこの発表会」

[期 間] 令和4年12月3日(土)～令和5年1月15日(日)

「チャレンジ！かいこプログラム」の締めくくりとして、小学生や幼稚園児などが作成した蚕の観察記録や繭・生糸を使った作品等を募集し、展示、表彰しました。

イ 実演・講習会

くみひもストラップ作り体験、手作り真綿の実演・講習会、真綿からの太糸作り実演、手紬糸作り実演、ハンカチ染め体験などを開催し、繭、生糸、真綿、絹への理解促進に努めました。

ウ 外部講師による講座

「きものの意匠にみる日本の伝統色・文様とその変遷」

[開催日] 第1回：令和5年1月14日(土)

第2回：令和5年2月12日(日)

第3回：令和5年3月11日(土)

「きもの」を通して、日本における伝統的な色や文様に各時代でどのような特徴や流行があったか、また現代に至るまでどのように受け継がれ、変遷したか、専門家を講師に招き全3回にわたり様々な側面から考察しました。

エ 学芸員によるギャラリートーク

[開催日] 令和4年4月2日(土)、9月17日(土)、
令和5年2月4日(土)

常設展示に沿って案内しながら、蚕や絹、染織品など多彩な話題を学芸員が来館者へわかりやすく解説しました。

オ 博物館実習生の受入れ

[期 間] 令和4年7月27日(水)～ 8月16日(火)

学芸員養成に協力するとともに当博物館を広く周知し、絹に対する理解と関心を深めていただくため、10名の学生を受け入れ、講義と普及活動の実践(蚕の飼育も含む)などの実習を行いました。

(3) 連携事業

ア 全国蚕糸関係博物館横断キャンペーン「カイコを育てよう！2022」

[期 間] 令和4年7月22日(金)～ 24日(日)

一般財団法人大日本蚕糸会と各地の蚕糸関係博物館等で実行委員会を立ち上げ、各館が開催する「かいこの飼育体験」等の催事を通じて蚕糸業への理解を深めていただく取り組みに参加しました。

イ ミニ企画展示「横浜スカーフにアフリカの風」

[期 間] 令和4年12月3日(土)～令和5年1月15日(日)

横浜市歴史博物館及び関東学院大学と連携して、横浜スカーフアーカイブ資料を展示しました。

ウ 「シルキークリスマス」

[開催日] 令和4年12月18日(日)

若い世代を中心に幅広い世代の方々に、楽しくシルクを理解し関心を深めていただくことを目的として、関東学院大学、クラシック・ヨコハマ等と連携してクリスマスイベントを実施しました。

(4) 広報事業

新聞、テレビ、ラジオ等の報道機関、小・中学校、服飾関係学校、ホテル、旅行会社等への広報、ポスター掲示などのPR活動を行うとともに、ホームページやツイッターの積極的な利用や、催し物案内を発行するなどして周知に努めました。

(5) 博物館月別入館者数(別紙)

2 シルク等普及推進事業(継続事業)

神奈川県在地場産業であるシルク産業の振興を支援するため、業界団体等の宣伝、シルクの普及、販売促進活動等の支援に努めました。

(1) シルク等普及活動事業

ア 「シルキークリスマス」(再掲)

[開催日] 令和4年12月18日(日)

若い世代を中心に幅広い世代の方々に、楽しくシルクを理解し関心を深めていただくことを目的として、関東学院大学、クラシック・ヨコハマ等と連携してクリスマスイベントを実施しました。

イ 「かながわシルクフェア」

神奈川県伝統産業であるシルク製品の普及・啓発及び販路拡大等を図るため、シルク製品に関わりのある団体及び神奈川県と連携協力のもと「かながわシルクフェア」を開催し、生糸、シルクの魅力の周知に努めました。

(2) 施設を活用しての普及活動支援事業

ア シルクミュージアムショップの運営支援

横浜のシルク産業を支援するため、博物館内のミュージアムショップ出店業務を横浜シルクミュージアムショップアソシエーションに委託しました。

イ 催事場等による支援

県民・市民の文化芸術活動の振興、地域社会への横浜のシルク産業の振興等を図る活動を支援するため、催事場やギャラリースペースの貸与を行いました。

博物館月別入館者数

(単位：人)

区分 月別		日本人			外国人			入館者計	(前年度) 入館者計
		一般 シニア 学 生 子 供	団体	計	一 般 シニア 学 生 子 供	団体	計		
令和4年	4月 (22日)	707	220	927	9	2	11	938	518
	5月 (26日)	1,790	518	2,308	22	73	95	2,403	1,123
	6月 (22日)	1,162	1,320	2,482	6	0	6	2,488	1,439
	7月 (27日)	990	477	1,467	22	0	22	1,489	1,399
	8月 (25日)	1,224	546	1,770	11	0	11	1,781	1,045
	9月 (22日)	659	559	1,218	10	3	13	1,231	533
	10月 (26日)	1,305	602	1,907	23	1	24	1,931	1,031
	11月 (22日)	1,229	672	1,901	75	131	206	2,107	3,168
	12月 (22日)	1,421	185	1,606	49	63	112	1,718	1,924
令和5年	1月 (23日)	915	340	1,255	20	5	25	1,280	1,216
	2月 (23日)	756	969	1,725	42	43	85	1,810	591
	3月 (27日)	879	414	1,293	108	4	112	1,405	1,528
合計		13,037	6,822	19,859	397	325	722	20,581	15,515
月平均		1,086	569	1,655	33	27	60	1,715	1,293

() 開館日数

Ⅱ その他事業

公益目的支出計画の安定的な実施のため、収益事業として次の事業を行いました。

1 部室賃貸事業

ホームページを活用したPRに加え、不動産会社に仲介及び広告業務を委託し、テナントの誘致を積極的に展開するとともに、良質な部室の提供や執務環境の整備に努め、入館率の一層の向上をめざしました。

(1) 部室の賃貸業務

ア 部室賃貸等収入

部室賃貸料金	386,480千円
諸料金	99,617千円
計	486,097千円

(2) 建物及び諸設備等の維持向上

当ビルは、建築から60年以上が経過しており、建物及び諸設備等の維持管理が大変重要な課題になっています。本年度においても会館の財務状況を踏まえつつ、耐震補強工事等の実施により、建物設備の安全の確保や長寿命化を図るとともに、良好な執務環境の整備に努めました。

本年度中に実施した重要な設備投資は次のとおりです。

耐震補強工事（M2階第1期A工区）	26,811千円
1階エレベーターホール他空調機更新工事	10,654千円
PCB廃棄処分費用（第4回処理分）	7,287千円
非常放送設備更新工事	4,950千円
立体駐車場2号機主モーター等交換工事	4,400千円
部室補修工事	2,595千円
計	56,697千円

(3) 保全管理関係

建物の環境衛生については、ビル衛生管理法に基づき定期的に測定を行い、また諸設備の点検には充分留意し、保全管理の徹底を図りました。

2 附帯事業

入館者等の利便に供するため、立体機械式車庫並びに平面駐車場の適切な管理運営に努めるとともに、正面玄関前の平面駐車場はタイムズ24(株)に運営委託しました。

(1) 立体機械式車庫収入

車庫使用料金 9,442千円

(2) 平面駐車場収入

駐車場使用料金 22,120千円